平成26年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年7月26日

上場会社名　株式会社ジパング　　上場取引所　東
コード番号　2684　URL　http://www.jipangu.co.jp/
代表者　(役職名) 代表取締役社長　(氏名) 谷　藤吉郎
問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役管理本部長　(氏名) 亀田　学　TEL 03-5468-3690

四半期報告書提出予定日　平成25年8月14日
配当支払開始予定日　―
四半期決算補足説明資料作成の有無　：　無
四半期決算説明会開催の有無　：　無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第1四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)　(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第1四半期	1,747	23.3	533	87.4	336	―	203	276.9
25年3月期第1四半期	1,416	31.3	284	―	28	―	54	―

(注)包括利益　26年3月期第1四半期　513百万円　(106.0%)　25年3月期第1四半期　249百万円　(―%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第1四半期	39.03	―
25年3月期第1四半期	10.36	―

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年3月期第1四半期	10,687	3,474	32.5
25年3月期	9,704	2,960	30.5

(参考) 自己資本　26年3月期第1四半期　3,474百万円　25年3月期　2,960百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	―	0.00	―	0.00	0.00
26年3月期	―				
26年3月期(予想)		0.00	―	0.00	0.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無　：　無

3. 平成26年 3月期の連結業績予想(平成25年 4月 1日～平成26年 3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	3,990	39.2	1,013	156.1	620	―	420	423.1	80.62
通期	8,101～8,639	38.4～47.6	2,016～2,273	84.9～108.5	1,061～1,308	273.5～360.1	645～805	147.1～208.5	123.70～154.41

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無　：　有

上記に加えて、連結業績予想に係る指標として、金の生産見込量を公表しております。平成26年3月期第2四半期(累計)の生産見込量は27,960オンス(対前年同四半期比31.2%増)、通期は59,000～64,000オンス(対前期比35.4%増～46.9%増)であります。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 ―社 (社名) 、 除外 ―社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年3月期1Q	5,218,504 株	25年3月期	5,218,504 株
② 期末自己株式数	26年3月期1Q	1,708 株	25年3月期	1,708 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年3月期1Q	5,216,796 株	25年3月期1Q	5,216,796 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、【添付資料】3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

１．当四半期決算に関する定性的情報 …… 2
（１）経営成績に関する説明 …… 2
（２）財政状態に関する説明 …… 2
（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 …… 3
２．サマリー情報(注記事項)に関する事項 …… 4
（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 …… 4
（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 …… 4
（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 …… 4
３．四半期連結財務諸表 …… 5
（１）四半期連結貸借対照表 …… 5
（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 …… 7
（３）四半期連結財務諸表に関する注記事項 …… 9
（継続企業の前提に関する注記） …… 9
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） …… 9
（セグメント情報等） …… 9
（重要な後発事象） …… 9
（４）その他 …… 9

１．当四半期決算に関する定性的情報

（１）経営成績に関する説明

当第１四半期連結累計期間（平成25年４月１日から平成25年６月30日まで。なお、決算日が異なる北米連結子会社５社については、原則として平成25年１月１日から平成25年３月31日までの経営成績が含まれております。）における当社グループの事業環境につき、ご報告いたします。

当社グループが米国ネバダ州に保有する２つの金鉱山における金生産事業は、スタンダード鉱山及びフロリダキャニオン鉱山の合計での金生産量が12,680オンス（前年同期比16.9%増）となりました。

主たる生産を行っておりますスタンダード鉱山におきましては、ネバダ州を襲った1917年以来と地元紙が掲載したほどの記録的な寒波及び気温低下の影響を受け、リーチパッド（野積集積場）の凍結並びに希シアン溶液の散布量が低下するなど、非常に厳しい操業環境となりました。しかしながら、前年より継続実施しておりますアグロメレーション（細粒粘土鉱物の造粒）手法が、効率的な金の抽出に大きく寄与したことに加え、２月以降の気温の上昇に伴い、希シアン溶液の散布量を増した結果、前年同期に比して生産量が増加しました。一方、フロリダキャニオン鉱山におきましては、当初の計画に比して多くの金を継続生産することができたことに加え、平成26年の操業再開を目指し、連邦及び州政府の主管官庁へ向け、修正施業案の作成並びに提出に係る作業を継続実施してまいりました。

当第１四半期連結累計期間における金価格は、１トロイオンスあたり1,690ドル台前半で始まり、２月には一時1,600ドル台を下回りましたが、３月には再び1,600ドル台へ戻るなど、概ね安定した推移となりました。

他方、当第１四半期連結累計期間における米ドル為替レートは、年初１月を87円台で迎え、同月下旬からは90円台へと推移し、３月に至るまで95円台を挟んだ動きとなりました。

以上の結果、当第１四半期連結累計期間における売上高は1,747百万円（前年同期比23.3%増）となり、操業に係る費用は勿論のこと、連結ベースでの販売管理費を厳格に管理した結果、営業利益は533百万円（前年同期比87.4%増）、経常利益は336百万円（前年同期比1,085.6%増）となりました。四半期純利益は、税金費用が増加したものの、203百万円（前年同期比276.9%増）を計上しております。

（２）財政状態に関する説明

（資産）

流動資産は、前連結会計年度末に比べ694百万円増加し、5,008百万円となりました。これは主にたな卸資産が844百万円増加し、現金及び預金が194百万円減少したことによるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べ288百万円増加し、5,679百万円となりました。これは主に投資その他の資産が288百万円増加したことによるものであります。

この結果、資産合計は、前連結会計年度末に比べ982百万円増加し、10,687百万円となりました。

（負債）

流動負債は、前連結会計年度末に比べ356百万円増加し、3,428百万円となりました。これは主にその他が212百万円、買掛金が93百万円それぞれ増加したことによるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べ112百万円増加し、3,784百万円となりました。これは主に資産除去債務が235百万円増加し、長期借入金が120百万円減少したことによるものであります。

この結果、負債合計は、前連結会計年度末に比べ468百万円増加し、7,213百万円となりました。

（純資産）

純資産合計は、前連結会計年度末に比べ513百万円増加し、3,474百万円となりました。これは四半期純利益を203百万円計上したことに加えて、為替換算調整勘定が310百万円増加したことによるものであります。

（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

（連結業績予想の修正について）

当社グループでは、平成25年５月14日に公表した平成26年３月期第２四半期（累計）に係る連結業績予想を修正しております。詳細につきましては、平成25年７月26日発表の「営業外費用の発生及び業績予想の修正について」をご参照ください。

（当社株式の上場廃止並びに今後の取扱いについて）

当社は、平成22年１月１日から平成25年３月31日までを期日とする「合併等による実質的存続性の喪失」に係る猶予期間に入っておりましたが、当該猶予期間最終日の平成25年３月31日までに新規上場審査基準に準じた基準に適合することが確認できない場合に該当するとして、平成25年４月１日より監理銘柄（確認中）に指定されました。

さらに、新規上場審査基準に準じた審査申請を行うことができる期限の最終日である平成25年７月９日（猶予期間終了後最初の有価証券報告書提出日である平成25年６月28日から起算して８日目（休業日を除外する。）の日）までに、当該審査申請を行えなかったため、平成25年７月10日付で平成25年８月11日（日）をもってＪＡＳＤＡＱスタンダード市場における上場廃止が決定し、整理銘柄への指定がなされております。

その後、平成25年７月24日、当社は、当社株式をフェニックス銘柄に指定するための届出を日本証券業協会に行ない、承認されました。これにより、株式会社東京証券取引所が定める有価証券上場規程施行規則第604条10号の規定により上場廃止日が平成25年８月11日（日）から平成25年９月11日（水）に延長され、当社株式は平成25年９月11日(水)よりフェニックス銘柄として、当社株式の取扱会員の証券会社において、引き続き売買が可能となる予定であります。

２．サマリー情報(注記事項)に関する事項

（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

３．四半期連結財務諸表

（１）四半期連結貸借対照表

（単位：千円）

	前連結会計年度 （平成25年３月31日）	当第１四半期連結会計期間 （平成25年６月30日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	246,667	52,632
たな卸資産	3,981,108	4,826,054
その他	86,413	129,820
貸倒引当金	△79	△85
流動資産合計	4,314,109	5,008,422
固定資産		
有形固定資産		
機械装置及び運搬具（純額）	1,030,600	1,083,659
その他（純額）	796,944	735,922
有形固定資産合計	1,827,545	1,819,582
無形固定資産	93,444	101,211
投資その他の資産		
繰延税金資産	1,112,424	1,239,823
差入保証金	1,830,941	1,995,185
その他	749,308	746,232
貸倒引当金	△222,808	△222,808
投資その他の資産合計	3,469,866	3,758,433
固定資産合計	5,390,856	5,679,227
資産合計	9,704,966	10,687,649
負債の部		
流動負債		
買掛金	294,725	388,442
1年内返済予定の長期借入金	2,179,453	2,250,971
未払法人税等	100,334	79,231
その他	498,129	710,302
流動負債合計	3,072,643	3,428,948
固定負債		
長期借入金	1,449,596	1,328,861
債務保証損失引当金	104,951	105,242
資産除去債務	2,108,855	2,343,935
その他	8,263	6,314
固定負債合計	3,671,667	3,784,353
負債合計	6,744,310	7,213,301

（単位：千円）

	前連結会計年度 （平成25年３月31日）	当第１四半期連結会計期間 （平成25年６月30日）
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,332,335	2,332,335
資本剰余金	3,952,630	3,952,630
利益剰余金	△2,929,698	△2,726,069
自己株式	△36,197	△36,197
株主資本合計	3,319,070	3,522,699
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	650	431
為替換算調整勘定	△359,065	△48,782
その他の包括利益累計額合計	△358,415	△48,351
純資産合計	2,960,655	3,474,348
負債純資産合計	9,704,966	10,687,649

（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
四半期連結損益計算書
第１四半期連結累計期間

（単位：千円）

	前第１四半期連結累計期間 （自　平成24年４月１日 至　平成24年６月30日）	当第１四半期連結累計期間 （自　平成25年４月１日 至　平成25年６月30日）
売上高	1,416,597	1,747,044
売上原価	891,198	1,016,545
売上総利益	525,399	730,498
販売費及び一般管理費	240,826	197,114
営業利益	284,572	533,384
営業外収益		
受取利息	1,725	796
ゴールドローン評価益	21,024	16,400
その他	4,809	150
営業外収益合計	27,558	17,346
営業外費用		
支払利息	158,890	134,768
支払手数料	74,068	56,755
為替差損	20,832	22,320
その他	29,993	806
営業外費用合計	283,784	214,651
経常利益	28,346	336,080
税金等調整前四半期純利益	28,346	336,080
法人税、住民税及び事業税	56,778	46,918
法人税等調整額	△82,462	85,533
法人税等合計	△25,684	132,451
少数株主損益調整前四半期純利益	54,030	203,628
四半期純利益	54,030	203,628

四半期連結包括利益計算書
第１四半期連結累計期間

（単位：千円）

	前第１四半期連結累計期間 （自　平成24年４月１日 至　平成24年６月30日）	当第１四半期連結累計期間 （自　平成25年４月１日 至　平成25年６月30日）
少数株主損益調整前四半期純利益	54,030	203,628
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△42	△219
為替換算調整勘定	195,415	310,283
その他の包括利益合計	195,372	310,063
四半期包括利益	249,403	513,692
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	249,403	513,692
少数株主に係る四半期包括利益	－	－

（３）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（セグメント情報等）

当社グループは、鉱山事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

（重要な後発事象）

該当事項はありません。

（４）その他

当社の連結子会社である株式会社ジパングエナジーは、平成19年９月21日付にて、株式会社計画科学研究所（名古屋市中区）並びに蟹江プロパン株式会社（愛知県海部郡）から、名古屋地方裁判所に訴訟の提起を受けていました。これは、平成17年５月18日付にて締結された廃棄物処理装置の販売に係る売買契約に不履行があったとの一方的な主張による損害として、総額324百万円の支払いを求めてきたものであります。

一方、株式会社ジパングエナジーは、平成19年12月25日付にて、相手方に対して債務不履行（債務遅延及び履行不能）を理由に総額190百万円の支払いを求め、名古屋地方裁判所に反訴の提起をしておりました。

名古屋地方裁判所は、平成24年２月24日付にて、株式会社ジパングエナジーに対し、相手方へ合計245百万円の損害賠償金及びこれらに係る遅延損害金の支払等の判決を下しました。

株式会社ジパングエナジーは、本判決における本件装置及び帰責性に係る著しい事実誤認と法的判断を不服とし、平成24年３月９日付にて名古屋高等裁判所へ控訴し、現在も係争中であります。

現時点において、当該係争事件による影響を予測することは困難であります。